

平成20年度

第3回岡山市総合政策審議会保健・福祉部会における主要な意見

- 1 日 時 平成20年7月23日(水) 13:30～15:16
- 2 場 所 保健福祉会館4階 こころの健康相談室
- 3 出席者 委員10名
- 4 傍聴者 報道2社
- 5 議 題 市立養護老人ホーム玉松園のあり方について
- 6 主要な意見

- ・以前、他の養護老人ホームの方針について3つの方法を決めたが、民設民営が進んでいないのはなぜか。
- ・「会陽の里入所者アンケート結果」を見ると、コストが下がっても、サービスの提供に対しては一定の入所者の評価は高くなっている。民営でやっていただきたい。
- ・民設民営という方向性が出た場合に、やろうという意欲のある事業者がいるのか。
- ・指定管理者を導入する方法はいかがか。
- ・高齢者虐待を受けている人たちの緊急避難的な施設ならば、公設民営くらいにして入所者の心・体のケアができ、声をあげやすい施設にしていきたい。
- ・民間はボランティアでやるのではないので、ある程度プラス部分がないとやれないと思う。どれくらいが収益として残るかを開示すれば手をあげる事業者も出てくるのではないか。
- ・公設公営であれ、民設民営であれ、どれが妥当かということ煮詰めていけないといけない。もう少し具体的な方針はないのか。
- ・指定管理者の場合は、何年かごとに更新し、その度公募すれば、運営主体が変わってしまうこともあり得る。
- ・民設民営はサービス低下が懸念されているようだが、市が責任をもって指導、監査をしっかりと行えばそのような事は起きないのではないか。
- ・療養型の病床が少なくなってきたおり、困っている人が多くいる。早くこの老人ホームの建て替えを実現してほしい。

玉松園の募集要項の案や土地等の問題が具体化された時点で再度検討する余地を残すということにして、今回は民設民営で進めていくことが了承された。